

PowerPoint の視覚効果を活用した英語授業の実践

清水 利宏（大阪経済大学 経営学部）

〒533-8533 大阪市東淀川区大隅 2-2-8

Phone: 06-6328-2431（代表）

E-mail: shimizu@english.gr.jp

【 発表要旨 】

このプレゼンテーションは、PowerPoint がもたらす視覚的な訴求効果を英語教育現場に応用した「2つの実践事例」について述べ、発表者の考察を加えるものである。発表で取り上げる2つの事例はいずれも、教室の壁面やホワイトボードを映写先としており、「スクリーンに依存しない PowerPoint の活用」が特徴となっている。PowerPoint スライドの視覚効果を活かして学習者の興味や関心を高める教育実践の一例として発表する。

第1の事例は、教室の壁面を映写先とし、教室空間への「必然的環境」(※後述「事例Ⅰ」)の雰囲気づくりを目指すものである。ここでは、大教室の広大な壁面パーティション(高さ約5m)に、PowerPoint による星空のイメージスライドを大きく映写し、架空の「星空」のもとで、季節(ここでは七夕)にちなんだ英語表現を指導する実践例を見る。

第2の事例は、ホワイトボードを映写先とし、直筆の書き込みとの併用効果による「視覚化の強化」(※後述「事例Ⅱ」)を目指すものである。ここでは、PowerPoint のスライド映像をホワイトボードに向けて映写し、そのホワイトボード上に講師が直筆の「書き込み」を加えることで、指導内容に、より一層の視覚的効果を与える実践例を紹介する。

「プロジェクタの映写先はスクリーンである」といった一般的な認識を越え、映写先を変化させるだけでも、PowerPoint の新たな活用法を見出すことができる。物理的な事情で小さなスクリーンしか置けない教室や、ホワイトボードの前面にスクリーンが配置されているような教室環境においてこそ、ここでの紹介事例のように、PowerPoint を活用した授業改善への手掛かりが存在することを忘れずにいたい。

【 事例紹介 】

■ 事例Ⅰ：壁面への大きな映写による雰囲気づくりと「必然的環境の演出」への取り組み

◆ 概要

ここでの「必然的環境」とは、学習内容(会話ダイアログやシーン設定)に応じた架空の現場が教室内に再現されることで、受講者が学習内容に対する必然性を認識しやすくなる環境を意味する。

今回、事例Ⅰで紹介するのは、教室の壁面に七夕をイメージした星空を大きく映写して、その雰囲気に包まれながら、願い事をする英語表現や、「wish + 仮定法」の文法解説をする教育実践である。



ここでは、PowerPoint による夜空の映像や、それにふさわしい BGM を併用した教室空間が、必然的環境を演出している。これにより、指導内容に対する学生の興味や関心を高めようとしている。

本事例の実践後、大学学部生および専門学校生を対象とした選択式のアンケート調査を実施した。その結果、9割以上学生が「授業の楽しさ」「教科書と比較した際の説明の分かりやすさ」「理解のしやすさ」などを肯定し、授業改善に対する一定の効果をうかがうことができた。

◆ 実施手順

(1) 教室を暗くし、壁一面に星空を映写

効果音楽(When You Wish upon a Star)を演奏し、

実際に「星空」を見上げながら、今日の要点を解説。

(2) 効果音楽の歌詞(英文)解説

音楽の歌詞を解説し、願い事をする雰囲気を演出。

(3) 「wish+仮定法」の文法解説&英文短冊の作成

“wish”を用いて、「～であっていいのに」という文章と、各自の自由記述による願い事の作成指導。

■ 事例Ⅱ：ホワイトボードへの映写と直筆記入による「視覚化の強化」への取り組み

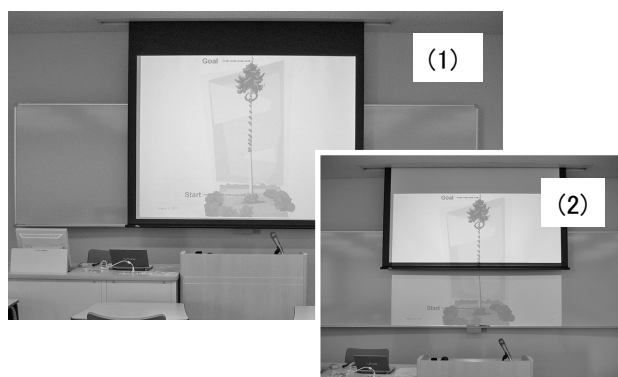
◆ 概要

事例Ⅰの映写先が壁面パーティションであったのに対し、事例Ⅱの映写先は教室のホワイトボードである。ここでは、ホワイトボードに向けて映写された PowerPoint スライドに対する講師直筆の書き込みが行われ、「本来のスライド映像」と「直筆の書き込み」が相互に視覚的な訴求効果を高めあう教育実践について紹介する。

今回、事例Ⅱとして取り上げるのは、「英語スピーチ・プレゼンテーション系科目」における、弁論構造の解説場面である。ホワイトボードの前にスクリーンが配置されるような教室設計については、その使い勝手に賛否があるが、本事例は、その教室環境（情報設備環境）を有効活用するための提案的な実践事例でもある。

◆ 実施手順

(1) スピーチに見立てた一本の樹木(↓)を映写。

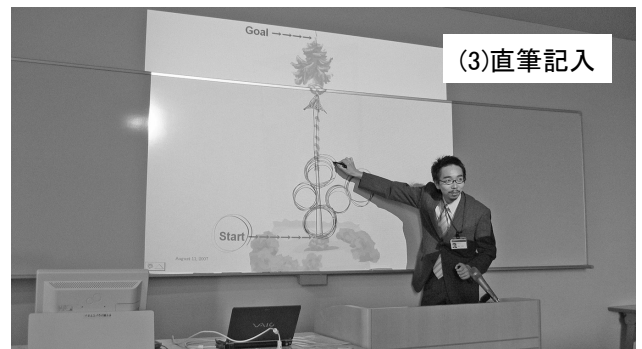


(2) スクリーンを上げ、ホワイトボード上(↑)に映写。

(3) ホワイトボード上に映写された映像の上に、「話題(段落)」を意味する丸印を書き込みながら、スピーチの段落構造について解説。(※写真 右段上)

(4) スライド操作で樹木の画像を消し、直筆で書き込んだ丸印の構成に注目させる。(※写真 右段中央)

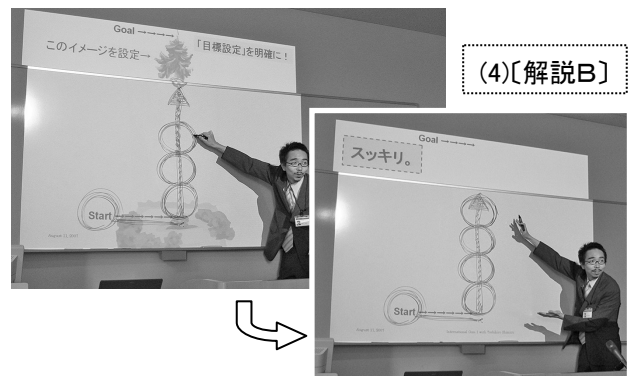
※この時、学生に対しては、次の〔解説A〕〔解説B〕の性質の良し悪しを視覚的に訴えることができる。



〔解説A〕 論旨にブレのある弁論：話題（丸印）が散在する、一貫性のない不安定感(↓)を指摘。



〔解説B〕 論旨に筋が通った弁論：樹木のごとく整然と話題が積み上がる安定感(↓)を視覚的に訴求。



【 おわりに 】

かつて、PowerPoint 自体がまだ広く知られていなかった時代には、PowerPoint を使って参考写真を紹介し、要点を明示するだけで、学生の関心や注目を容易に集めることが可能であった。しかし PowerPoint が珍しいものではなくなった現在、教育現場における導入にあたっては、ますます講師自身のユニークなアイデアが求められる。

本発表では、その一環として発表者が実践する PowerPoint の活用事例の中から、スクリーンに依存しない PowerPoint の活用法とその視覚効果について触れた。今後も、こうした工夫を発展させ、単なる「見せるためのスライド」から、スライドの中へ学生を引き込んでいく活用術について、実践的な研究を続けていきたい。